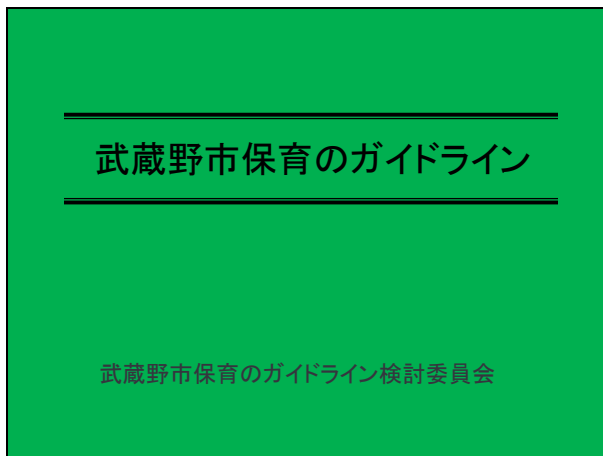


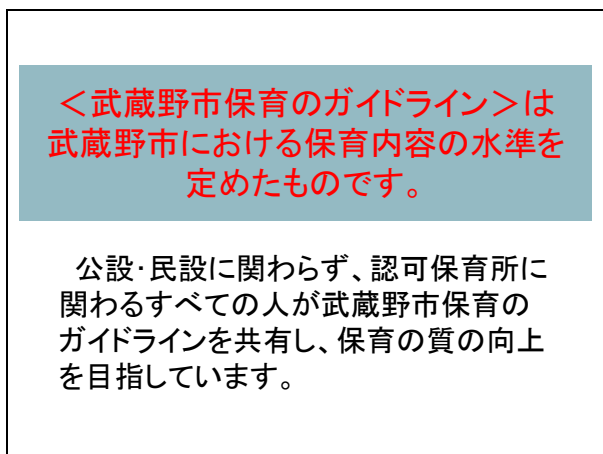
《付属資料》

平成 27 年 10 月 31 日 保育のガイドライン実践事例 映像

※（２）現在のガイドラインの活用について（P19）で、流された映像です。文章は 10 月 31 日に報告したものです。



『武蔵野市保育のガイドライン』についてと、現在行われている保育部会の取り組みをお伝えします。
武蔵野市では市の保育水準を定め、保育の質の向上を目指すことを目的に『武蔵野市保育のガイドライン』を策定しています。保育で大切にしていることやどのような保育を目指しているかを確認しています。



このガイドラインを作成するにあたっては、検討委員会を立ち上げました。そのメンバーは認可保育所の保育士だけでなく保健や栄養といった専門職、又行政職である市役所保育課の職員が参加しました。
なにより特徴的なのは、保育所の保護者の方々に参加していただいたことです。



『武蔵野市保育のガイドライン』の活用の 1 つとして保育部会があります。保育部会では、ガイドラインの中の“保育”に関して、年に数回武蔵野市の認可保育所から保育士が集まり、保育の実践検討を行っています。



26年度“幼児の生活づくりと遊び”というテーマにそって“生活”“遊び”“身体づくり”について実践検討を行いました。武蔵野市の保育園ではどのようなことを大切に保育しているかという事のごく一部ですが、26度の実践検討から写真も交えながらお伝えしていきたいと思います。



子ども達は遊ぶことが大好きです。遊びの中でたくさんを学んでいきます。大人が遊ぶものを提供するのではなく、子ども達が自分で選んで遊ぶことができる環境を大切にしています。



それぞれがじっくり遊べるように、ままごとコーナー、絵を描くコーナー、手先のあそびコーナーなど色々なコーナーを工夫して設定しています。



これは、ままごとコーナーです。子どもたちは、生活の中で経験した事を再現して楽しめます。



いつもはお家の人にやってもらう事もごっこ遊びの中では自分でやってみることができます。「今日のご飯はカレーですよ」とお友だちにごちそうしてあげたりもします。



子どもたちは、大人のする事がやってみたくて仕方ありません。大人への憧れを持ち、育っていきます。「お母さんみたいにお化粧してみたい」「思い通りにできた」と満足して遊べることで、充実感を味わいます。そのことで、片づけも気持ちよくでき、次への活動に気持ちを切り替えていけます。

身体を動かすのが大好き！



子どもたちは身体を動かすことも大好きです。遊びながら、身体も心も豊かに育っていきます。そのことが自分の身体を守る力にもつながっています。保育所では戸外活動として、散歩にでかけていきます。散歩の様子と、保育所で身体を使って遊んでいる様子をご紹介します。

散歩では公園に遊びにいたり、保育所の周りを探索したりします。目的地の公園ではアスレチックなどの遊具で遊ぶほかに、広い場所で走ったり、虫探しを楽しんだりしています。



がらがらどんの橋だよ！

散歩先の公園では、保育所とは違った経験ができます。

これは吊り橋を渡っています。ゆらゆら揺れる感覚にちょっとドキドキしながらも楽しんでいます。身体の平行感覚も養われます。また、揺れた時にぐっと踏ん張ることで足腰の力もついてきます。

みんなが大好きな絵本“3匹のやぎのらがらどん”のイメージで楽しんでいるのかもしれませんが。「がたんごとん」と揺れる楽しさ、「トロルがでてくるかも～」というイメージを仲間と楽しんでいるようですね。



のぼり棒

のぼり棒、ちょっと怖いけれど、大人に支えてもらったり、仲間から応援を受けて挑戦してみます。できた時には嬉しく、自信につながります。「もっとやってみよう」と意欲にもつながります。



板のぼり

少し難しくても、仲間がいれば頑張れます。



アスレチック

バランスを保ちながら、手足をスムーズに出せるようになります。次にどこに手や足を置くか考えています。



丸太渡り

両手を広げてバランスを取りながら渡ります。自然と手でバランスをとっています。

歩くことは全身運動！



歩く事そのものが全身運動になります。幼児クラスでは片道20分～30分歩きます。遠い公園の場合は目的地まで歩く力もついていきます。



乳児クラスは友だちと手をつないで歩くこともできるようになります。



虫探しをしたり、保育所にはない植物や木に触れることもできます。



子ども達にとっては宝物である小石を拾ったりすることも大事な活動です。お花にそっと触ったりすることも、手指の育ちにも役立ちます。



自分の背よりも高い所をよいしょと登ります。幼児クラスの大きな子ども達だけでなく、乳児クラスでも今持っている力を最大限に発揮します。全身の力を使い、「頑張るぞ！」という気持ち、そして「できた！」という満足感がまた次への意欲につながっていきます。子ども達は散歩を通して、楽しみながら様々な力をつけていきます。



保育所では、体育あそびとして体育遊具を使った遊びをしています。これは、はしご渡りで手足を交互に動かして進んでいます。



ケンパー

遊びの中で身体をコントロールする力も育っていき、その場でのけんけん跳びから、前に進むケンパーができるようになります。



夏の楽しみは水遊びです。プールでは、水の感触やさまざまな遊びを楽しみます。



5歳児くらいになると、水中で浮く感覚を楽しんでいます。身体を丸めてボールのように浮いています。



リズムあそびでは、子どもの成長発達の順序にそった動きで、音楽に合わせてながら身体を動かしています。楽しみながら身体をコントロールする力を培っています。
子ども達は、ウサギになったり、馬になったりといろいろな動物のつもりになって楽しみながら身体を動かしています。



うまの高這いです。頭をしっかりあげることで背筋力もつきます。



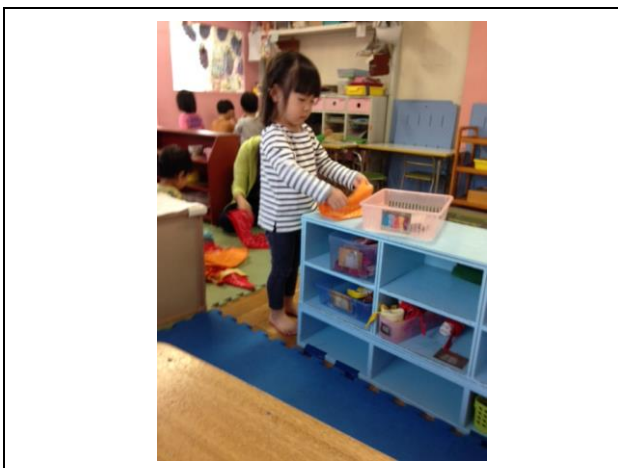
歩いたり走ったり、ポーズをとったりと、大人のまねっこをして音楽に合わせて身体を動かすことを楽しんでいます。このようなリズム遊びは、1・2歳の頃から行っています。



小さい頃からの積み重ねで、年長になると走りにもスピードが増し、前進をコントロールすることも巧みになります。
とんぼになって走った後、最後のポーズで止まります。



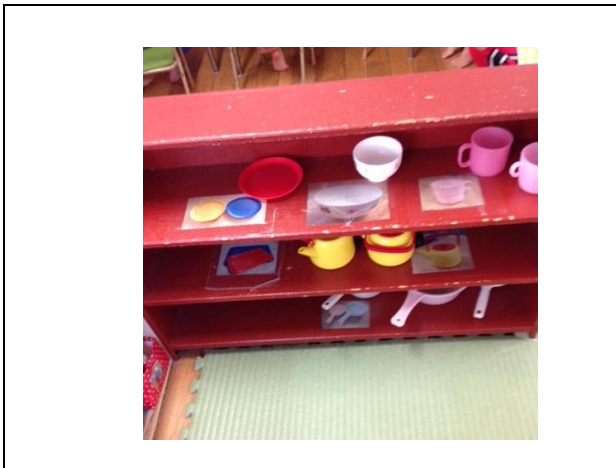
みんなで手をつなぎ、一つの輪が途切れないようにすることもできるようになります。そしてみんなの気持ちが一つになります。



室内での遊びや身体作りを通して遊びの紹介をしてきました。子ども達は遊びを通して様々な力を身につけていきます。



遊んだら片づけることも遊びや生活の中で身につけていきます。



保育所は、子どもが片付ける場所が分かるように工夫をしています。ままごとコーナーには玩具の写真を貼っています。



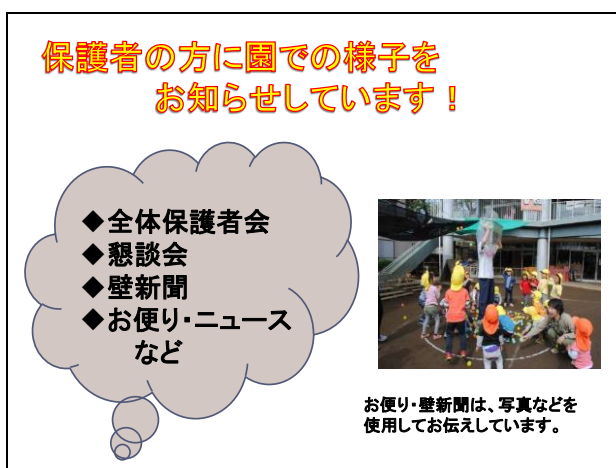
自分でできる事が増えていくと子ども達は、自分で片付たり、遊びの区切りをつけたり、生活の見通しを持てるようになります。



生活がわかりやすくなると、自分のことは自分でしようという自主性も育っていきます。



“やってみよう”という意欲、“面白そう”という好奇心、“じっくり取り組む”集中力、“友だちと一緒に遊ぶ”楽しさや関わり方を学んでいきます。これらの力は子ども達の育ちの土台となるものです。以上『武蔵野市保育のガイドライン』を通して、保育園で大切にしていることをお伝えしてきました。



保育所での様子は、保護者会、壁新聞、お便り等で保護者の方に、お知らせしています。



ガイドラインの保育部会は27年度も引き続き実践検討を行っています。

武蔵野市では保育のガイドラインを基に保育で大切にしていることや保育の取り組みの様子を交流しながら、子どもの力をどう育てていくかを確認しています。

現在新制度が導入され、小規模保育や家庭的保育も市の認可事業となっています。

これらの保育施設とも連携を取りながら保育に関わるすべての人が『武蔵野市保育のガイドライン』を共有し、武蔵野市のすべての子ども達の育ちを保障していきたいと思っています。

「武蔵野市保育のガイドライン」を基に
様々な取り組みをしています。



市内には現在18か所の認可保育所と認定子ども園があります。保育内容で多少の違いはありますが、それぞれの園で工夫しながら保育を行っています。